

# 『日本語学研究』投稿規定及び要領

## ■ 投稿規定

### 1 (学会誌発刊)

|       | 学会誌発刊日 | 投稿論文      |
|-------|--------|-----------|
| 第1回発刊 | 3月20日  | 前年度12月20日 |
| 第2回発刊 | 6月20日  | 3月20日     |
| 第3回発刊 | 9月20日  | 6月20日     |
| 第4回発刊 | 12月20日 | 9月20日     |

- ① は上記の日程で年4回発刊する
- ② 投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

### 第2条 (投稿規定)

原則的に本学会の会員に限る(最近2年間の会費の完納のこと)。ただし、会員との共同投稿者及び招請講演者は例外とする。

### 第3条 (投稿対象)

一般会員の場合は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。ただし、学生会員の場合は学術発表会での口頭発表をしなければならない。

### 第4条 (論文内容)

既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならず、学会の研究倫理規定に従う。

### 第5条 (掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。

### 第6条 (分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

### 第7条 (投稿論文受付)

- ① 論文は学会の投稿要領に従って作成し、必ず学会のホームページ (<http://www.jlak.or.kr>) の論文投稿にオンラインでアップロードする。
- ② 審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。
- ③ 投稿者の身分事項は論文作成要領に提示された投稿者身分事項票に記入し、論文の最後のページに添付する。これは論文の分量に含まれない。

### 第8条 (審査)

投稿された論文は審査規定にのっとり、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の該当または関連研究分野の編集委員が推薦する委員の中から、細部研究分野を考慮して編集委員会で決定する。

## 9 (審査料、掲載料)

は1編あたり6万ウォン 掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。掲載論文の分量が18ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。ただし、審査料は論文投稿の締切日まで、掲載料は掲載用の原稿提出締切日までに入金する。

### 第10条 (校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

### 第11条 (別刷本)

原稿料は別途に支払わずに、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。

### 第12条 (著作権)

け付けた原稿は返還しない。また投稿論文が学会誌に掲載された場合、著作権は学会に帰属する。

### 第13条 (その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

## ■ 投稿要領

### 1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

### 2. 使用環境

原稿は☐を使用して作成することを原則とする。ただし、☐で入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。

### 3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。

### 4. 原稿分量

で規定した論文作成要領に従って 図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。18ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

### 5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

#### ① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後ろに“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③ 要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中で選択し、明示する。

(例:音声・音韻論、形態論、構文論、意味論、語用論、社会言語学、日本語史、日本語教育、その他の日本語学)

⑤ キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる主題語を4~5個以内で提示する。

⑥ 本文

- ⑦ :本文の内容を補充する必要がある場合 脚注を作成する。
- ⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。
- ⑨ 参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一の著者の文献である場合、著者名にする。
- 例: 高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』麦書房, pp.1-5  
김정수(2003)「한일어 조사대조」『일본어학연구』 제6집 한국일본어학회, pp.1-5  
Rakoff,L.(1973) *Language and Women's Place. Language in Society*, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

## 6. び表

すべての図及び表は上段中央に <図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

## 7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20))

## 8. 外来語表記

ハンゲル正書法の外来語表記法に従う。

## ■ 審査料 掲載料入金先

### [要旨発刊費]

入金期限:学術発表会の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

金額: 10,000ウォン

### [審査料]

入金期限:論文投稿締切日

金額: 60,000ウォン

### [掲載料]

入金期限:掲載用原稿提出の締切日

金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文 : 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※規定に従い、論文の分量が18ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンの追加を負担する。

### [入金口座]

口座番号 : 国民銀行 488402-01-274497 (李暲洙)

\*入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載する(例: 흥길동심사료)

### [審査及び掲載用論文提出先]

(hwangyounghee@gmail.com)

編集理事 : 黄永熙 教授(漢陽サイバー大学校)

### [論文投稿受付締切]

1. 3月20日発行学会誌 : 前年度12月20日まで
2. 6月20日発行学会誌 : 3月20日まで
3. 9月20日発行学会誌 : 6月20日まで
4. 12月20日発行学会誌 : 9月20日まで

## ■ 論文作成要領

： ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の種類: 使用者定義, 幅170, 縦240  
余白: 上20, ヘッダー10, 下10, フッター0, 左15, 右
2. 論文のフォントは韓国語は新明朝、日本語は新明朝略字を原則とする。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

|       |  |
|-------|--|
| 論文題目  | ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160                                   |
| 副題目   | ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160                                       |
| 著者名   | ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160  |
| 要旨    | ポイント 9, 両側混合, 行間隔 160  |
| 論文分野  | ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160   |
| キーワード | ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160   |
| 大見出し  | ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160                                    |
| 中見出し  | ポイント 11, 左 寄せ, 行間隔 160                                       |
| 小見出し  | ポイント 10, 左 寄せ, 行間隔 160                                       |
| 本文    | ポイント 9.5, 両側混合, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt                       |
| 引用文   | ポイント 9, 両側混合, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt<br>(例文など番号がある場合、12ポイント追加) |
| 脚注    | ポイント 9, 両側混合, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt                        |
| 参考文献  | ポイント 9, 両側混合, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt                        |

\* のページの論文作成例示を参考にすること

# 日本語の単文構造に関する考察

－述語を中心に－

朴○○\*

< Abstract >

## A study of the structure of simple sentence in Japanese : Focusing on predicate

The purpose of this paper examines the following: .....

Field : Syntax

Key-word : Structure, Simple sentence, Complex sentence, Predicate verb, Predicate adjective

## 1.はじめに

本研究では日本語の単文構造について.....

## 2. 文の種類

文には単文と複文がある。益岡・田窪(1992)<sup>1)</sup>では単文と複文を次のとおりに定義している。

単一の述語を中心として構成された文を、「単文」という。..... (中略) 複数の述語からなる文を、「複文」という。.....

### 2.1 単文

単文は述語によって動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文に分けることができる。

.....

#### 2.1.1 動詞述語文

単文の中の動詞述語文について .....

(1) 太郎が花子とコーヒーを飲んでた。

上の例文(1)で見たとおりに.....

---

\* 大 教授, 日本語学

1) 益岡・田窪(1992) p.4

## 4. おわりに

本研究では日本語の単文構造について述語構造を中心に考察した。単文の動詞述語文、形容詞述語文.....に関する研究はこれからの課題としたい。

### 【参考文献】

- 高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のAspect』麦書房 pp.1-5  
仁田義雄(1989)「文の構造」『講座日本語と日本語教育 4 日本語の文法・文体(上)』明治書院  
益岡・田窪(1992)『基礎日本語文法』くろしお出版  
Rakoff,L.(1973) Language and Women's Place. Language in Society, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

< >  
**일본어 단문 구조에 관하여**

본 연구는 일본어 단문 구조에.....

논문분야 : 문법

키워드 : 문의 구조, 단문, 복문, 동사술어, 형용사술어

\* 次のページに著者の身分事項を作成する

## 日本語学研究論文題目

(ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160)

—韓国 日本語学会 論文 副題—

(ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160)

<1行空け>

朴○○\*

(ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160)

(著者名の \*の後ろの脚注番号は で隠す。下の脚注内容でも同様)

< Abstract >

A study of the structure of simple sentence in Japanese :  
Focusing on predicate

The purpose of this paper examines the following: .....

Field : Syntax

Key-word : Structure, Simple sentence, Complex sentence, Predicate verb, Predicate adjective

<1行空け>

論文分野: (ポイント 9 左 寄せ, 行間隔 160, 本文と同じ言語)

キーワード: (ポイント 9 左 寄せ, 行間隔 160, 本文と同じ言語, 4-5個)

<2行空け>

1. 大見出し<sup>1)</sup> (ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160)

<1行空け>

本文 (ポイント 9.5, 両側混合, 行間隔 160, 段落 1行目インデント 10pt)

<1行空け>

1.1 中見出し (ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160)

本文

<1行空け>

1.1.1 小見出し (ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160)

本文

<1行空け>

引用文 (ポイント 9, 両側混合, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt)

(1)例文 (例文番号など番号がある場合、上の様式に追加: アウトデント 12pt)

<1行空け>

\* 大 教授, 日本語学

1) 題目の番号体系は 1. →1.1 →1.1.1→ 1.1.1.1 のようにする。

本文

<2行空け>

**【参考文献】**

参考文献 (ポイント 9, 両側混合, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt)

脚注 (ポイント 9, 両側混合, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt)

— < 지 > —

**일본어학연구 논문제목**

と異なる言語(英語推奨)で作成し 論文の題目も本文と異なる言語で明記する。(ポイント 9, 両側混合, 行間隔 160)

논문제목 : (ポイント 9 左寄せ, 行間隔 160, 上の要旨と同じ言語)

키워드 : (ポイント 9 左寄せ, 行間隔 160, 上の要旨と同じ言語, 4-5個)

\* 次のページに著者の身分事項を作成する



## 著者身分事項

|               |                     |  |    |       |    |  |
|---------------|---------------------|--|----|-------|----|--|
| 氏名            | 한글                  |  | 漢字 |       | 英文 |  |
| 論文題目          | 한글                  |  |    |       |    |  |
|               | 日本語                 |  |    |       |    |  |
|               | 英文                  |  |    |       |    |  |
| 所属            |                     |  |    | 職位    |    |  |
| 細部専攻分野        |                     |  |    |       |    |  |
| 住所<br>(別刷本受領) | 郵便番号(      -      ) |  |    |       |    |  |
| 電話番号          |                     |  |    |       |    |  |
| 携帯電話番号        |                     |  |    |       |    |  |
| Eメール<br>アドレス  |                     |  |    |       |    |  |
| 学会発表日         | 年    月    日         |  |    | 無発表投稿 |    |  |
| 学会発表場所        |                     |  |    |       |    |  |
| 論文投稿日         | 年    月    日         |  |    |       |    |  |

1. 上記の身分事項中、氏名(ハングル及び漢字)、所属及び職位、Eメールアドレスは論文の末尾に明示される事項です。
2. 無発表投稿である場合、O印を表記してください。